

地域水田フル活用ビジョン

人

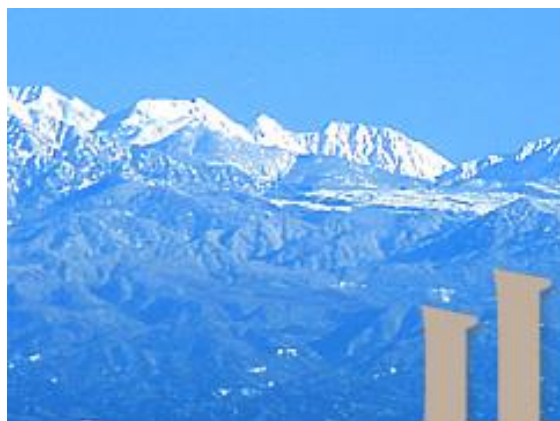


大自然の恵みが知恵を生み、
人を育み、優れたお米をつくりだす。



日本有数の急流河川が、
澄んだ水を運んでくれる。

水



立山連峰からの雪解け水。
豊かな森林は降水を浄化する。

山

地



いくつもの河川が
土地を潤し、肥沃な大地をつくる。

アルプス地域農業再生協議会

26年12月

アルプス地域水田フル活用ビジョン

アルプス地域農業再生協議会

1. 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題等

当該地域は、県の中央部から東部に位置し、全耕地面積に占める水田の割合が、98%で基盤整備率が85%と整備が進んでおり、土地利用型農業の生産性向上等をより一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられる。組織化も徐々に進んでいるものの、困難な地域もあり今後の営農継続が危ぶまれる。

大豆・大麦については、播種期の降雨等による作付面積の減少や、集中豪雨などの気象災害による適期作業の遅延等により低品質・低収量などがみられ、安定的な供給が課題となっている。

白ねぎ栽培では、3～4月の天候不順等により定植時期が遅れ8月の早期出荷時期を逃すことや、早期の降雪により収穫を断念することなどが課題となっている。

また、さといもでは、優良種芋の確保・盛夏の猛暑対策等が課題となっている。

2. 作物ごとの取組方針

管内の約7,150haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。生産数量目標に沿った作付面積の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作の主要作物と位置付ける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、管内畜産農家との連携を推進し、需給バランスが保たれるよう努める。また、地域に適した多収性専用品種の導入推進及び団地化の推進を図り、5年後には、現状の1.5倍の作付面積を目指す。

イ 加工用米

安定的な取組とするため、複数年契約を推進するとともに、その取組インセンティブ等により生産の拡大を図る。

ウ 備蓄米

水田フル活用に向け、落札数量に応じて取り組む。

エ 米粉用米

需要に応じた取組拡大に向け、新たに米粉用のもち米の作付に取り組み、今後の拡大に努める。

オ 輸出用米

現在の取組は、一部での支援米に留まっているが、積極的に情報の収集等を行い輸出用米の取組拡大を目指す。

(3) 麦・大豆・飼料作物

品質・収量及び生産性の向上に向け、湿害を回避するための排水対策の実施、高性能機械の導入による省力化・機械化体系の構築、団地化の推進などを進めることにより取組拡大を図る。さらに、大豆については、生産性の高い優良品種への転換も検討する。

(4) そば・なたね

そば・なたねの導入により地域特産化を図るとともに、そばの二毛作体系を実施することにより土地利用率の向上・水稲用機械の効率的利用を進める。また、団地化を進めることにより、品質・収量及び生産性の向上を図る。

(5) 野菜

地域振興作物については、担い手経営の複合化として推進し、経営の安定化が図られるよう誘導する。特に、白ねぎ・さといもについては、「1億円産地づくり」に向け規模拡大及び品質の向上を目指す。

白ねぎは、排水良好なほ場を選定することを最重視し計画的に定植等作業が行える範囲以内で段階的に取組拡大を進める。さといもは、品質をより高めるため、優良種芋選抜圃場を数カ所に設置し、優良種芋の確保に努める。

(6) 地力増進作物

地力の維持・向上を図るため、実情に応じた地力増進作物の栽培を推進する。

(7) 不作付地の解消

現行の不作付地について、今後5年間で半分程度まで、加工用米・備蓄米及び飼料用米の作付により解消を図る。

3. 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の 作付面積 (ha)	平成26年度の 作付予定面積 (ha)	平成28年度の 目標作付面積 (ha)
主食用米	4,651.5	4,560	4,470
加工用米	192.6	230	265
備蓄米	251.5	262	262
米粉用米	0.5	15	30
飼料用米	79.0	80	120
WCS用稲	78.2	95	133
麦	293.4	310	330
大豆	374.7	395	400
飼料作物	26.7	30	35
そば	35.9	35	40
なたね	1.3	2	2
その他地域振興作物	191.3	199	221
野菜	68.8	74	90
花き・花木	9.1	11	11
果樹	66.4	68	68
雑穀	1.0	1	1
地力増進	35.1	60	75
景観形成	20.9	20	20

4. 平成28年度に向けた取組及び目標

取組 番号	作物	取組	分類	指標	平成25年度 (現状値)	平成26年度 (当年)	平成28年度 (目標値)
1	麦	生産性向上のための 団地化	イ	実施 面積率	71.9 %	73 %	75 %
	大豆				51.1 %	53 %	55 %
	飼料作物				45.4 %	54 %	56 %
	そば				66.2 %	72 %	74 %